

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4391200112		
法人名	有限会社 さかがわ		
事業所名	グループホーム椿		
所在地	熊本県上天草市龍ヶ岳町高戸1237-15		
自己評価作成日	令和3年2月15日	評価結果市町村受理日	令和3年3月22日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/43/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 あすなろ福祉サービス評価機構
所在地	熊本市中央区南熊本三丁目13-12-205
訪問調査日	令和3年2月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「穏やかに・笑顔絶やさず・地域に寄り添う」を、理念に掲げ地域の方より日頃から散歩の途中や、小学生の登校時等に気軽に声を掛けていただいております。魚や野菜・果物の差し入れもあり地域の方々とのふれあいを大切にしています。自然豊かな環境の中でも、近くには、協力医療機関の上天草総合病院があり、災害時にも避難場所の龍ヶ岳統括支所をはじめ、東天草分署(消防署)もあり緊急時対応していただけれる様に運営推進委員会への参加を通して情報を共有しご協力いただいております。見守り支援システムの導入・ホームページ作成・テレビ電話での対応や、新型コロナウイルス感染症対策の中でもご家族様へ、ご利用様のご様子をブログ等を通して記載し、いつでもご確認していただける対応を行っている。技能実習生受け入れ雇用も実施している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

今年度は、管理者や職員の変更という変革期にあるが、新型コロナという難局のなかにあっても地域資源を活用した外出や、ホーム内でのレクリエーションを充実させる等職員の創意工夫が入居者の笑顔ある生活に直結させ、家族との連絡を密接にし、ホームページを通じ家族の安心感へとつなげている。入居者の身体的な面からも日々の健康管理等により異常の早期発見に努め、主治医との連携や家族の思いに応えたいと看取り介護を研修する等ホームの姿勢に敬意を表したい。また、大型台風時の避難も職員・行政・地域住民の協力のみならず、ホーム側も積極的に住民へ関わることで認知症ケア啓発、及び地域との関係性が一層深まった事例である。理念である「穏やかに・笑顔絶やさず・地域に寄り添う」が具体的に表われており、入居者の笑顔ある生活を今後もホームページで見続けたいホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念は、継続して掲げスタッフ間でも共有できるように、設置場所は(休憩室・リビング・玄関)変えず確認行い実践につなげられるようにしている。 また、ホーム内での短期目標(3か月毎)も掲げ、実践状況の見直し等ミーティング時に行っている。	「穏やかに・笑顔絶やさず・地域に寄り添う」を理念として掲示による意識付けや、短期目標を日々のケアに直結させており、入居者の穏やかな生活に表われている。年間を通して新型コロナ情報を共有するとともに、水分補給やインフルエンザ等感染対策を目標として真摯にケアに努めるホームである。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染症対策により、地域のつながりに限りは、あったが出来るだけ散歩や、桜の花見等季節の行事を利用して近所へ出かけるように対応した。	小学生の登校を楽しみに見守り、地域住民から差し入れや、花見等季節毎に地域へ出向いている。大型台風に伴う自主避難時の職員の協力とともに、地元住民からの声かけ等の他、ホーム側も避難住民への対応などに積極的に関わりながらケアを発信したことで一層地域住民との関係性を深めている。	コロナ禍の中、初詣等今出来る支援に努められている。コロナ収束に伴い、行事等を通じ地域住民との交流が再開されるものと大いに期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議(文書開催)での民生委員の方等へ情報を掲載し伝えている。また、令和2年10月6日の台風避難時、避難所先で地域の方々と話される等していく中で認知症を理解して頂く機会があった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度は、文書開催としてホーム内の活動状況をお伝えし、意見があった場合は、スタッフへ伝えてサービス向上へ、繋げている。	今年度は各委員へアンケート調査を行い、委員の協力により進めることとし、資料や写真等を持ち届け、意見等を収集している。家族には椿便り等で発信し、共有化としている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議資料等の中での助言等頂いており不明な点等は、随時連絡し確認している。	行政へ新型コロナ感染対策の質問等不明な点は随時連絡し、感染対策では多くの情報を得ている。また、台風時竜ヶ岳統括支所へ避難し、行政からも避難確認等協力関係を築いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会ホーム内での会議時に、スタッフ同士で身体拘束について話し合う機会を作り拘束のないケアを継続して取り組んでいる。	身体拘束適正化委員会としての話し合いの他、言葉使いには自分たちで確認しあうとともに、トイレ誘導時の声かけ等気になる事案はその時点で注意喚起している。見守り支援システムの利用やセンサーの設置について家族の同意を得て利用し、帰宅願望や外出傾向等個々の状況を把握し、その時々職員が寄り添い、外に出る等個別に対応している。また、小さなあざも見逃さず、原因など記録に残し精査しながら拘束・虐待の無いケアを徹底している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束委員会を設置しておりホーム内での会議の開催により、虐待について学ぶ機会を設け、マニュアルの確認、日頃のケアの見直し・課題等ないか確認している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されている利用者様は、いないが研修会などへ参加しスタッフ同士で勉強会を開き学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、十分な時間をかけ説明を行っている。また、改定時には、ホームページ等を利用した情報を提供している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様からは、日々日常の会話や、スタッフ同士でちょっとした生活場面での一言・動作等を共有し本人様の気持ちを考慮し実践に取り組んでいる。ご家族様へは、電話連絡・面会時等意見を伺い運営に反映している。	家族へは電話による状況発信や、窓越し面会時に家族の要望等を聞き取りしている。また、受診時に家族の付き添いが可能な場合には意見等を収集している。玄関に意見箱とともにホームに関して感じる事や改善してほしいこと等を聞かせていただきたいとしてアンケート用紙を備え付け、サービスに反映させるとしている。入居者には日々の関わりの中で聞き取りしており、「ここが楽しい」等の意見も挙がっている。また、ブログや椿便り等を通じた情報発信や連絡を密にしながら、コロナ禍での不安な家族の思いに応えている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者・管理者は、ホーム内での会議に毎回参加しており、会議内で職員の意見・提案を伺い改善策等がないかの確認を行い、対応している。また、玄関側カウンターへは、アンケート・ご意見箱設置しいつでも職員記入できるようにしている。	代表及びホーム長との会議やホーム内会議により職員の意見や提案等を聞き取りしたり、主任を介した意見を管理者が上申する等職員が意見や提案を出す機会は多く、ケアの中での身体的な面(腰痛予防等)も検討し、近くにある調剤薬局からの教材を利用しながら腰痛予防対策につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の努力や実績等は、代表者へ報告行っており状況把握行っている。また、希望休についても希望通り勤務表へ反映できるよう対応している。パート職員へも、希望する時間帯、勤務へ対応できるよう配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内での会議でケアに対する勉強会開催しており資格取得へも積極的に試験へ、挑戦できるよう対応している。また、技能実習生を通して日々のケアへの取り組み方、指導を含め確認行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内での、他4事業所での1日訪問を行っており意見交換・報告書確認にて職員間で意見の共有、実践へつなげられるようにしている。同業者への交流としてリモート会議の開催等行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様の、何気ない会話や仕草、日常と違った言動などに目を向け、ご本人様の思いを導き出し安心できる信頼関係を構築できるよう職員間で情報を共有するようになっている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前には、ご家族様・ご本人様とホームの見学をしていただき、不安な所、要望等について相談を受け事前に職員同士で情報の把握を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様・ご家族様と一緒に必要な支援を考え提供できるサービスの説明・情報の提供行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	掃除や料理のお手伝い等日常で出来る事を一緒にを行い職員は、ご本人様のお手伝い役として支援している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会制限中でもご本人様と、お話しできるようタブレットでのテレビ電話の利用であったりホームページでの近況報告。荷物・お手紙等届いた際、ご本人様と電話で連絡したりとご家族様との関係性を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	近所へお買い物へ出かけたり、朝、小学校生徒への登校時の見送りをされるなど地域との交流を大切にしている。また、行事や誕生会等の様子を毎月のお便りへ掲載し発行している。	家族の訪問や、登下校の小学生を見守り、近くにある調剤薬局や移動販売での買い物、初詣、ドライブ外出等社会性やこれまでの関わりを継続して支援している。また、七夕短冊作りや豆まき、誕生会・敬老会等慣習を継続して行っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	ご利用者様一人一人が思いのまま過ごしていただき運動や、レクリエーション等皆さんで参加者と一緒に楽しんでいただけるように支援している。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了時後も、関連機関への連絡、情報提供やご相談等ご家族様の気持ちの把握し必要に応じて相談を受けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話や、ちょっとした仕草などからご本人様の思いや感じていることを職員同士で情報を共有し記録に残す等意向の把握に努めている。また、各担当でのご本人様の状態の考慮・思い等も会議の中で意見し、検討している。	入居者の一人ひとりの思いや暮らし方の意向は、日々の会話での把握や表情等から推察している。発語困難等把握が難しい場合に、生活歴や表情の変化等観察の結果を踏まえ、日々の経過記録に残している。また、担当職員の情報等をプランニングに反映させている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様、ご家族様、知人やご親族様からの情報収集、担当の介護支援専門員からの聞き取り等行っている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご利用者様一人一人の日常生活での様子や状態変化・有する能力等について職員間で記録や申し送り、会議での議題等にして現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	介護計画の確認を月1回の、会議の中で内容の確認を行いご本人様に思いや状態の変化がないか話し合っている。ご本人様・ご家族様の意向の聞き取りに努めご本人様が安心して生活できる計画作成を行っている。	毎月の会議の中で担当職員からの日々の様子を確認し、介護認定期間を目標期間としたプランを作成している。入居者の“自分でできることはやりたい”とする思いや生活歴を生かす等モニタリング内容を踏まえ暫定プラン内容を検討し、正式なプランを作成している。	入居者の思い及び職員の観察結果がプランに反映されている。今後も、入居者の心身の変更による追加や削除等により現状に即したプランとされる事を期待したい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別記録へは、ご本人様の発言やいつもと違う行動などあった場合等記録に残すようにしている。職員間で、気づいた点等情報を共有しながら見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ご本人様・ご家族様の要望に合わせて散歩や、買い物等行い受診時には、ご家族様へ連絡し状況次第で同行していただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所への散歩・ドライブ等、ご本人様の生活されていた地域へ出かけてみたり、移動販売へ出かけ本人様の好きなものを選んで購入していただいている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医については、往診(訪問診療)対応等説明をご本人様、ご家族様へ説明を行い了承の上、同対応行っている。また、ご本人様・ご家族様の要望により以前からのかかりつけ医希望された場合、意向を尊重し適切な医療を受けられるようにしている。	現在は本人・家族の希望、了解のもと徒歩圏内にある医療機関による往診と、これまでのかかりつけ医への受診を支援している。日々健康チェックを徹底し、24時間医療との連携を図り、歯科については訪問により毎週水曜日に口腔ケアと必要な治療が行われている。また、口腔内の清潔が感染予防につながることを共有し、歯科医や衛生士からの指導やアドバイスを日々の支援に活かしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師と、常に連絡がとれる体制にしており、ご利用者様の状態変化時等すぐに連絡を行いその後の対応について指示受け対応している。往診時には、主治医を含め看護師へ、ご本人様の状態常に伝えている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は、病院へ情報提供書の提出を行い入院中は、定期的に病院へ連絡し医療連携室担当者もしくは、担当看護師よりご本人様の状態の把握・退院予定等についての確認を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に指針の説明を行いホームでの対応可能なところと対応できないところについて確認・説明を行い署名捺印いただいている。また、状態変化時、重度化・終末期について話し合いをご家族様と行い今後の支援について確認行っている。	重度化・終末期に関する指針をもとに、家族との話し合いを大切に説明を繰り返しながら対応を決定している。現在は、医療体制の点から出来るところまでホームで対応し、入居者の体調不良に、ミーティングにより全員が状況を共有し、家族・主治医とのサービス担当者会議を開催する等、家族の思いに応えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の動き・対処法が、確認出来る様にマニュアルを作成し各職員同士で共有している。連絡等については、緊急連絡網を使用して対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年度は、台風時、実際に避難行い地域の方々のご協力のもと無事に避難ができ今後の災害対策への学びとなった。また、消防訓練では、開設後、初めて中央防災と訓練し各種操作の確認等実施できた。	今年度は初めて、防災業者との訓練を実施し、火災報知機の使用について、女性職員の力の度合いによる対応の難しさなど、新たな気づきが確認できている。昨年9月の台風10号による地域避難所への自主避難の際は、同避難者からも車いす対応者に配慮してもらえなど、理解が得られたことに感謝を語っている。また、職員へも事業所の方針を伝え、避難活動への協力を受けている。報告書からもホームの取組が詳細に確認された。備蓄についてはリストを作成している。	今後も地震や風水害など自然災害について風化させる事なく、机上を含めた訓練や振り返りの機会を持たれることを期待したい。また、安全に関する自主点検チェック表については、居室ベットのコンセントなどの項目も追加されるとよいと思われる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ご利用者様、個人の尊重・プライバシーへの配慮へ、対応ができるよう今までの生活歴や、経験を元にした会話や言葉かけを十分把握し対応している。	職員は方言を交えながら、入居者が安心してもらえる言葉使いや対応を心掛けている。管理者はトイレ誘導時の声掛けなど、気になることがあれば、全職員への周知に努めている。呼称は本人や家族に確認し苗字や下の名など対応を決定している。身だしなみやおしゃれも本人の希望を尊重し、自ら整容をされる方や個々に応じて必要なサポートを行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の中で、掃除・洗濯・料理等出来ることをご本人様のペースに合わせ、活動が出来る様に取り組んでいる。また、表現が困難な方へは、ご本人様の生活歴や、表情等のちょっとした変化に気づき、対応出来るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご利用者様一人一人の生活状況に合わせて居室や、リビング・ソファでゆっくりと過ごしていただき希望があればドライブや、散歩へ出かける等支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご自分でその日その日の洋服選びや、気持ちよく更衣・整容していただける様な声掛けを行い、その際ご希望等あれば聞き取り行っている。また、散髪も、ご本人様の希望の髪型へ相談しながら行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	ご利用者様の好みのメニュー等聞き、提供したり旬な物、行事等に合わせた献立作りをしている。また、ご利用者様へも料理の下ごしらえや、食器洗い・台拭き・お盆拭き・おやつ作り等職員も一緒に行っている。	入居者の意見を踏まえ献立をたて、三食に汁物を添える事でのど越しも良く、旬を活かした日々の食事は楽しみとなっている。クリスマス忘年会などのイベント食や誕生会も当日に祝いを行っている。入居者が普段の調理に関わる機会は感染症への対応もあり少なくなっているが、たこ焼き(エビ焼き)作りや年末には餅つきに参加されている。また、テーブル拭きや食器洗い等「日常の様子」として写真と共に紹介されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1日の食事摂取量・水分補給を記録し、月1回の体重測定によりご本人様の体重増減の把握・状態観察実施している。ご本人様の状態に合わせて食事形態を職員同士で話し合い対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	定期的(毎週1回)歯科往診時、衛生士からのケア・指導受け職員間で共有し、実践している。また、歯科医師からの治療を行っている。毎食後の口腔ケア実施しており必要に応じて手伝いや、確認を行っている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を確認して出来る限りトイレでの排泄が出来る様に支援し排泄パターンや、排泄量を観察・記録し、ご利用者様に合った排泄介助を行っている。	現在はリハビリパンツを使用される方が殆どであり、日中は基本的にトイレでの排泄を支援している。昼夜オムツ使用の方も、排便はトイレへ誘導している。1名の方が夜間のみポータブルトイレを使用されているが、状況に応じ設置を検討したり、衛生的な管理に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の排便状態を記録し、職員間で把握・共有し個々に応じた食事・水分を提供し、自然に排便が出来るように支援している。体操や、レクリエーションにより運動への働きかけを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	ご利用者様の、その日の身体の状態に合わせて声掛け・誘導行い入浴をして頂いている。拒否される場合は無理をせず翌日へ変更するか、更衣・清拭等ご利用者様の希望を聞いて支援している。	入浴は同性介助への希望があれば可能な限り対応し、午後を中心に週3回を基本に支援している。拒否される場合も、無理強いせず個々のペースで入ってもらえるよう努めている。ホームの浴槽は特殊浴が設置され、入居者及び職員の負担も少なく安全に支援されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとり、その日の体調を考慮して居室内で休んで頂いたりソファーや、リビング等好みの場所でゆっくりと過ごして頂いている。寝具調整や、室温管理に努め気持ちよく眠れるように支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方内容を、内服薬説明書でいつでも確認出来る様にファイル作成し設置している。また、居宅療養管理指導で薬剤師からも指導・助言頂いている。誤薬防止に服薬時、日付・氏名・服薬の時間(毎食後なのか等)を声に出してご利用者様と一緒に確認して手渡しもしくは、服薬介助行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの出来る事を把握し一緒にレクリエーション、体操・洗濯物たたみ・掃除・食器洗い・料理等その人の能力を活かした役割分担、季節ごとの行事、誕生会等の楽しみや気分転換が図れるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節ごとの行事(花見や、初詣等)ご利用者様皆様出かけられる様にしている。天気の良い日には、散歩や、ドライブ等の支援している。また、ご利用者様の好みの物や食材等の買い物へも職員と一緒に出かけている。	コロナ禍の中で外出には制約もある中で、対策を施しながら花見や初詣などの外出や、移動販売の利用、散歩圏内である調剤薬局売店での買い物など入居者の楽しみな外出の時間を継続している。また、登校中の小学生に手を振ったり、外出への希望があれば可能な限り支援している。	以前は家族の面会時に近隣を散歩されるなど協力が得られており、入居者・家族双方の楽しみであったと思われる。コロナ感染症の一日も早い収束により、家族との外出も再開できるものと期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご利用者様で、現在金銭の所持されている方いなくご家族様からのお預かり金によりご本人様の希望があれば外出時に支払いして頂いている。また、お預かり金については、ご家族様より預かった場合、領収書発行し保管している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご利用者様・ご家族様からの希望により電話・テレビ電話等の対応行っている。お手紙等、要望があればご本人様に書いて頂いている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご利用者様様と、一緒に手作りの飾り物や塗り絵等の四季を感じて頂く様な飾り付けを展示しており、ウッドデッキや外回りには季節の花々を植えている。また、ホーム内には、ご利用者様が生けた花等も、飾っている。	玄関先やウッドデッキなどには季節の花苗を植え、リビングには月ごとの飾りつけや入居以来特技の生け花を披露される方もおられる。入居者と作品作りを行う際は、作業内容に合わせて音楽を流すなど工夫している。コロナ感染対策として、これまで以上に換気や掃除の徹底をはじめ、注意喚起文書などの掲示や、玄関、職員休憩室にはそれぞれ必要な対応品が設置されている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ゆっくりと過ごしていただける様に休憩や気分転換をされたい時には、ソファーやテーブルの移動に配慮し好みのテレビ番組を楽しく見ていただける様に座席の移動等に対応している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時には、出来るだけご本人様が、ご自宅で使用されていた馴染みの家具や生活用品を持参して頂ければご家族様と話し合い対応して頂いている。また、家族写真や、アルバム・誕生日プレゼントの寄せ書き等個人に配慮した環境作りを行っている。	居室への持ち込み品について、自宅にある物や使用していた家具が落ち着かれることを説明しているが、新たに衣装ケースを購入される方が多い現状である。家族の写真やアルバムをはじめ、職員による誕生祝いの寄せ書きは個々に応じて準備されることから、入居年数やホームでの生活ぶりなども伝わってくる。現在は、家族の面会が制限されており、居室の環境作りは職員が中心に行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご利用様が安全に自立した生活を送っていただける様に廊下・トイレ内へ手摺りの設置また、トイレなどの場所が分かるようにご利用者様目線に配慮した標識の設置・日付が分かるようにリビングへ日めくりカレンダーの設置等行っている。		